

# 令和2年度 島田樟誠高等学校 学校評価

## 教育目標

自ら求めて学ぶ自主自律の精神を養い、心身を鍛えるとともに、校訓「誠、愛、勇」の下に人格の完成をめざす。

## 教育方針

- 1 学校生活における目標を持たせる。
- 2 学習に積極的に取り組む姿勢を育て学力を向上させる。
- 3 思いやりの心や規範意識を育み社会性を身に付けさせる。
- 4 進路意識を高め進路目標を達成させる。

## 令和2年度における学校経営方針と具体的目標

学校経営方針	具体的目標	自己評価	成果と課題	関係者評価
教育課題の解決に積極的に取り組む。	目指す学校像や育てたい生徒像を明確にして共通理解を深め、その実現のための方策を実行する。	B	<p>「知識・技能を身につける」、「新しい自分を発見する」、「人間性を高める」、という具体的な目標に基づいて教育活動を展開した。</p> <p>令和3年度入試においては、特に志榛地区受験生急減期にも拘らず、実質的な入学者となる単願者が20人増加し、単願だけで募集定員を満たすことができた。</p> <p>本年度の転退学者数は、前年比で18名減(1/26現在)となっており、カウンセリングの充実等生徒へのきめ細かな指導が着実な成果となって表れている。</p>	B
	キャリア探究コース、進学探究コース、特別進学コースの設置の趣旨を踏まえ、進路の実現を目指して教育課程を実施する。	B	<p>新教育課程編成に向けて検討委員会を年間8回開催した。活発な議論を行い全職員に丁寧な報告をすることで、学校全体で取り組む雰囲気を作った。同時に3コースごと新教育課程編成をとおして特色化の検討を進めることができた。</p>	
	部活動等に真剣に取り組むことを通じて心身を鍛え達成感が持てるように指導する。	A	<p>本年度は63%の生徒が部活動に所属し積極的に活動している。</p> <p>公式戦(高校総体、新人戦、選手権等)では、卓球部が全国大会及び東海大会に出場した。またソフトテニス部、卓球部、バレーボール部、陸上競技部、柔道部、バドミントン部、水泳部、弓道部が県大会に出場した。特にバレーボール部はインターハイ代替大会県3位、卓球部は新人戦男子3位、女子5位の好成績だった。</p>	
	男女共学校としての特性を推進する。	B	<p>学習指導、生徒指導、部活動等の教育活動において共学校として完成年度を迎え充実した教育活動を行った。</p> <p>女子生徒が増え、部活動でも女子の活躍が顕著である。特に卓球部の全国大会出場者は1年女子であり、今後さらに活躍が期待できる。</p>	

			部活動以外の課外活動でも、毎月1回(年12回)、FM島田の番組「ハイスクールラジオ」に生徒7人(男子3名、女子4名)が出演し、本校をPRした。また「島田市高校生ラジオ、お仕事訪問」、「高校生による地方創生研究発表会」等体験を伴う探究活動に積極的に参加した。	
目標意識を育てる。	学校生活の様々な分野における具体的な目標を持たせる。	B	各学年、分掌、教科ごと生徒たちに具体的な目標を持つよう呼びかけを日常的に実施している。 教育課程では、全学年で週1時間実施の「夢実現プロジェクト」において、学年と進路課が連携したオリジナルの進路指導プログラムを実践した。また各学年ごとに進路説明会を実施し、進路意識の高揚を図った。	A
	目標達成の手掛かりとして資格試験や検定試験等に積極的に挑戦させる。	A	授業や夏季講座において漢字、英語、数学、日本語ワープロ、情報処理、表計算、文書デザイン、パワーポイント、フォークリフト危険物取扱等の検定試験や講習の対策を行い多くの生徒が挑戦し資格を取得した。本年度も、英語検定、漢字検定で2級の合格者が出ており、他生徒の刺激となった。	
学習指導を充実する。	校内や校外の研修に積極的に取り組み、授業の質の向上を図る。	B	今年度研修委員会が中心となって若手教員に対する研修会を月3回程度実施した。若手教員は研究授業を実施し授業力の向上を図った。コロナウイルス感染症拡大のため校外で予定されていた研修会等はほぼ中止になったが、オンラインによる研修システム「Findアクティブラーナー」を8月以降開始し、全職員が日常的に研修する仕組みを確立した。	B
	チャイムと同時に授業を始め、授業に真剣に取り組む姿勢を育てる。	C	教務課が中心となってチャイムと同時の授業開始を呼びかけた。ただしクラスや授業担当によって温度差があり、今後更に改善が必要である。また授業中集中力を欠く生徒の指導についても、クラスや教科によって現れが異なっているため、全教員で課題意識を共有し、担任と教科、あるいは教科を超えた情報共有と指導連携が必要である。	
	分かりやすい授業による基礎学力の習得と、進路に応じた発展的な学習指導の徹底により、個に応じた学力を向上させる。	B	若手研修の一環として4人が研究授業を行い、該当教科以外の教員も多くが参観した。同時に振り返り研修を行った。またICT教育推進委員会が呼びかけしてICT機器を使用した授業見学会も実施した。 全校漢字テストは2月までに予定どおり年8回実施し、マナトレ(数学の学び直し)も例年同様実施した。またベネッセコーポレーションの基礎力診断テストをキャリア探究コース、進学探究コースにおいて全学年で実施した。特別進学コースでは、ベネッセコーポ	

			<p>レーションの進研模試、河合塾の全統模試を実施した（他コースは希望者が受験）。今後も、これらの取組を継続し基礎学力と発展的学力の定着を図っていく。</p> <p>さらに生徒全員に各科目のシラバスを配布し、授業の目標や計画、評価方法等を明確化した。</p>	
	朝読書等を通じて、読書の習慣を身に付けさせる。	B	<p>年間とおして毎朝 10 分間の朝読書を実施し読書習慣が着実に身についた。図書課、図書委員会が中心となって、読書への興味を喚起する取組や展示を行った。夏季休業中、国語科が中心となり生徒自ら読みたい本を購入させ読書する取組は、多くの生徒から好評であった。</p>	
	授業のみならず学校生活全般を通してコミュニケーション能力を育てる。	B	<p>コミュニケーション力向上のため「総合的な探究の時間」「夢実現プロジェクト」の授業を積極的に活用した。3年生は進路集会を年間5回実施し、グループごと本校職員と面接練習を行った。また9月12日（土）3年生89人が、外部講師による模擬面接を行った。面接官として本校理事、評議員、保護者、保護者OBの方々15名の協力を得て、本番さながらの面接を実施しコミュニケーション力向上に大いに効果があった。今後も継続してコミュニケーション力向上を図るが、一方で発達障害等課題を抱える生徒も少なからずいるので、職員研修を充実させる必要がある。</p>	
生活指導を徹底する。	人を思いやる心を育て、ルールやマナーを守る意識を高める。	B	<p>日常的な指導呼びかけにより意識の向上は見られる。生活指導を受けた件数が前年比で7件減少するなど（2/1 現在）成果が表れている。また今年度は自転車マナーアップモデル校に指定されたため交通安全委員会が中心となって地域・警察等と連携し意識の向上に努めた。ただし自転車のイエローカードについては、依然として違反件数が多く、更にきめ細かく取り組む必要がある。男女交際のトラブル、SNS上でのトラブル等も複数あり、教員の指導意識の変革と迅速な対応が求められる。そのためにも全校をあげて高校生活の基本となる「人間性を高める」という課題を共有化する必要がある。</p>	B
	自主的に、明るく、さわやかな挨拶をするように指導する。	B	<p>運動部活動での挨拶指導や、朝の登校指導等が功を奏し、多くの生徒が気持ち良い挨拶をしており、地域からも評価されている。</p>	
	規則正しい生活習慣を確立し、遅刻、欠席をしないように指導する。	C	<p>毎朝、正門、西門、生徒昇降口で管理職、学年主任、生徒指導主事、担任が登校指導を行い、またクラス担任が遅刻、欠席が多い生徒には家庭と連絡を取りながらきめ細かく指導している。更に生徒指導課を中心に8:25登</p>	

			校を奨励している。特に月ごと登校指導強化週間を設け、6月から2月まで5回実施した。いずれもメール配信により生徒、保護者に周知を図るなど学校と家庭が連携した。	
	頭髪、服装、交通安全等の指導を徹底するとともに、日常の正しい立ち振る舞いを徹底する。	B	計画に基づいて、学期に1回、生徒指導課が主催して全校一斉頭髪服装（眉・ピアス）検査を実施し、また月1回、学年における頭髪服装検査も行った。検査に合格できるまで指導を重ねることに因り、服装、頭髪等に関しては良好な状態にある。 交通安全指導は、地域、警察とも連携するとともに、生徒会の交通安全委員会も積極的に活動した。	
進路指導を充実する。	体系的な進路指導体制を確立し、早期に進路目標を立てさせる。	B	例年どおり「進路のしおり」を発行し1年次からの計画的なプログラムを作った。また、全学年で「夢実現プロジェクト」の時間を使って進路指導課と学年部が連携して探究的な学習を取り入れた進路指導を実施した。 3年生では進路サポーター制による進路集会を全教員で実施し丁寧な進路指導を行ったため、進学・就職ともに着実な成果につなげることができた。 また今年度から全学年女子生徒がそろったため、女子生徒の出口指導をきめ細かく行った。幼児教育系や看護系の女子に人気の高い上級学校にもしっかりと合格することができた。	B
	進路意識を高め、目指す進路目標の実現に向けて組織的な進路指導を強化する。	A	進路決定状況は、2月1日現在で4大進学58人、短大進学6人、専門学校等71人、就職90人、未定14人となっている。次年度からキャリア探究コース初の女子が3年生となるので、女子の就職希望者への対応のため、いっそう求人企業の拡大を目指していく。進学指導では、各大学、短大、専門学校の特色の理解、入試制度や入試科目研究に特に力を入れて指導している。 特別進学コースでは、2月1日現在の進路決定者は23人中13人で、そのうちの9人（7割）が国公立大学に合格している。未決定者も国公立2次試験に向けて学習を継続させており、学習の成果がしっかり表れている。	
	進路指導に関する資料の充実と整備を図る。	B	進路閲覧室に進学用、就職用の資料が整備されており、生徒、職員が随時利用している。今年度も受験者が作成した大学等の入試や就職試験の報告書を回収し、データの蓄積に努めている。進学については生徒の希望に応じて個別の大学赤本を整備した。就職についてはコロナ感染症対策のため、リモート会社説明会への対応を図るなど、職員の指導ス	

			キルも向上した。	
安全や健康に関わる教育を推進する。	安全や健康に配慮した環境の整備を図る。	B	保健委員会の生徒が健康に対する啓発のための「保健便り」をほぼ毎月発行し、2月1日現在5号（年間8～9号）まで生徒職員に配布した。また、時期ごとの流行性疾患については養護教諭を中心に、手の消毒液の全クラス配置をはじめとした早めの対応をしている。ただし例年流行するインフルエンザ罹患者は、ほぼいない状況であるが、感染性胃腸炎への罹患報告は複数あった。	B
	健康について関心を高め、日常の健康管理が実践できるよう指導する。	B	本年度は、コロナウイルス感染症対策のため「健康観察記録用紙」を全生徒に毎月配布、回収し感染予防に努めた。またマスク着用やゴミの取扱についても日々きめ細かく指導した。こういった指導及び生徒の意識高揚によりインフルエンザの流行は抑えられている。	
	地震等の災害に対する防災意識を高めるため、防災訓練等の方法を工夫する。	B	本年度避難訓練を2回実施（6/11、10/21）した。2回とも実際の災害を意識して平常の授業時に抜き打ちで行ったが、生徒職員ともに慌てることなく、マニュアルどおり冷静な避難行動を行うことができた。地域防災訓練については係からの参加呼びかけを行ったが、新型コロナウイルス感染拡大の時期と重なったため訓練そのものを行わない地区が多かった。ただし危機管理は常時必要であり、今後も防災意識の高揚に努めていく。	
	交通安全に対する意識を高め、交通ルールの遵守を徹底する。	B	地域の方、警察署、職員、生徒交通安全委員による交通街頭指導を年間3回実施した。また今年度自転車マナーアップモデル校に指定され、生徒職員とも意識が高揚した。	

A～Dの評価については次のように規定する。

A 十分に達成できた。 B おおむね達成できた。 C やや不十分な面が見られた。 D 不十分であった。